

『SABOカード』の配布に至るまで

◆砂防堰堤から流れる流水に愛称を！

地域住民や観光客の皆様に砂防堰堤をより親しんで頂くため、砂防堰堤から流れる流水の様子に「〇〇の滝」というような愛称名を募集し、255件の応募の中から施設付近の観光協会や教育関係者、関係市町村などと選定を行い、令和元年度に愛称を付けました。

愛称の付いた砂防堰堤4基について群馬県内で初めて「SABOカード」の制作を行いました。

万座川第二砂防堰堤 「万座の滝」



SABO-DATA

所在地：群馬県碓氷村千俣
河川名：利根川水系烏妻川支川万座川
型式：重力式コンクリート堰堤
規模：高さ20.0m 長さ63.0m
貯砂量：22.3万m³
設置者：国土交通省
完成年：平成5年(1993年)

基本情報
万座川は、流域内の温泉及び硫黄鉱山跡地などからの廃水の流入によりPH3以下の強酸性河川です。そのため当堰堤は、コンクリート表面に耐酸工法を用いた特殊な施工をしています。また、当流域は、火山地域であることより地質が脆弱で瓦礫地からの土砂流出が著しい流域でもあります。

こだわり情報
通常のコンクリートの耐久性は、PH4~5が限界とされています。当堰堤の耐酸工法は、本体表面に石膏工及び耐酸性樹脂等の重ね塗りによりコンクリートを保護して、耐久性の向上を図っています。愛称は「万座の滝」です。

片品上流砂防堰堤 「尾瀬さくらの滝」



SABO-DATA

所在地：群馬県片品村戸倉
河川名：利根川水系片品川
型式：三次元式コンクリート堰堤
現在：重力式コンクリート堰堤
規模：高さ17.5m 長さ57.0m
貯砂量：78.0万m³
設置者：国土交通省
完成年：昭和35年(1960年)

基本情報
当堰堤は、比較的低容量に位置し、基礎及び両岸は硬質な岩盤であったことより、新存用を考慮した三次元式の特殊な方法で設計され、最も経済的な側面から施工した三次元コンクリート構造でした。平成11年(1999年)に、堰堤下流部の災害復旧と併せて構造対策として堰堤下流側に護岸工を行ったため、重力式コンクリート構造に変更になりました。

こだわり情報
当堰堤の補修工事の事業仕上げは、景観に配慮して周辺の岩肌から型取りした特殊な型枠を製作し、自然な岩に見える様な工夫をしています。下流にある副堰堤は、V型に折って自然な流れに見える工夫も行ってあります。地域の地名「桜」より愛称は「尾瀬さくらの滝」です。

通常コンクリートの耐久性は、PH4~5が限界とされていますが、万座川は、流域内の温泉及び硫黄鉱山跡地などからの廃水の流入によりPH3以下の強酸性河川であるため、コンクリート表面に耐酸工法を用いた特殊な施工をしています。

また、愛称名は、万座川からイメージし、景観や響きが美しいことから「万座」という名前を残して『万座の滝』が選ばれました。

景観に配慮して表面を一般的に使用する型枠ではなく周辺の岩肌から型取りした特殊な型枠を製作し、自然な岩に見えるような工夫を行っております。

また、愛称名は、付近に「桜」という地名があり、目の前にある橋の名前が「桜橋」で、尾瀬からの清流の流れ落ちる様が、とても美しい景色と流れとなっていることから『尾瀬さくらの滝』が選ばれました。

橋倉川第二砂防堰堤 「山中の滝」



SABO-DATA

所在地：群馬県多野郡上野村藤山・神流町尾尻
河川名：利根川水系神流川支川橋倉川
型式：重力式粗石コンクリート堰堤
規模：高さ10.0m 長さ48.0m
貯砂量：1.51万m³
設置者：国土交通省
完成年：平成11年(1999年)

基本情報
橋倉川は、三田山に源を発する神流川の支流です。周辺地域は、主に中生代の地質で化石などが発見されています。当堰堤は、従来のコンクリート構造ですが、深谷景観と調和を図るため本体表面を巨石積みで施工し、コンクリートが見えない工夫をしています。

こだわり情報
地元小学生のアイデアで、神流町で発見された恐竜の足跡の主である「山中竜」をモチーフに地場産の三波石やみかぼ石の色の違いにより、砂防堰堤の表面にその姿が浮かび上がるように工夫されています。堰堤が雷で濡れた時、くらすとその姿が現れます。愛称は「山中(サンチュウ)の滝」です。

榛名上流砂防堰堤 「つづらの滝」



SABO-DATA

所在地：群馬県高崎市榛名山町
河川名：利根川水系烏川支川榛名川
型式：重力式粗石コンクリート堰堤
規模：高さ17.0m 長さ69.0m
貯砂量：6.8万m³
設置者：国土交通省
完成年：昭和30年(1955年)

基本情報
榛名山流域は、昭和10年災害・昭和22年のカスリーン台風でも甚大な被害を受け、これを機に榛名山川上流部に建設されたのが榛名川上流砂防堰堤です。当堰堤は、隣接する榛名山から榛名山へと続く敷道路「関東ふたの道」沿いにあり、大規模な緑化植樹は周辺の深谷景観と調和し、新たな景観地を創出しています。

こだわり情報
堰堤の本体は粗石コンクリート造り。表面は矢羽小谷積による陣石積。天端は流石が敷かれ、国土交通省が管理する管内の高さ15m以上の陣石積堰堤の5基中の1基です。堰堤完成後3年間は、冬季凍結地をスクートリンクとして利用されました。歴史の景観に寄与している事より平成18年(2006年)に登録有形文化財に登録されています。堰堤上流部には奇石「九折岩(つづらいわ)」がそびえ立ち、愛称は「つづらの滝」です。

地元小学生のアイデアで、神流町で発見された恐竜の足跡の主である「山中竜」をモチーフに地場産の三波石やみかぼ石の色の違いにより、砂防堰堤にその姿が浮かび上がるように工夫しております。

また、愛称名は、砂防堰堤に「山中竜」が浮かび上がること、山の中の自然と溶け合っていることなどから『山中(サンチュウ)の滝』が選ばれました。

この愛称は、地元小学生の応募した愛称です。

歴史的景観に寄与している事から平成18年(2006年)に登録有形文化財に登録されております。

また、愛称名は、砂防堰堤の上流に、葛籠(つづら)を積み重ねたように見える奇岩「九折岩(又は九十九岩)(読み：つづらいわ)」が見えていることから『つづらの滝』が選ばれました。

「つづらいわ」は、溶岩の貫入により今の形になったとされています。